

付属資料3. 新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト中間レビュー 評価グリッド

評価大項目	調査中項目	調査小項目:PDM指標等(実績)、 散間(実施プロセスと5項目)	必要なデータ、入手方法	備考
1. 投入の実績	1.1 中国側の投入	①CPの配置 ②施設・機材(専門家執務室等) ③プロジェクト運営経費	プロジェクト報告書	
	1.2 日本側の投入	①専門家派遣 ②本邦研修 ③供与機材 ④プロジェクト運営経費	プロジェクト報告書	
2. 成果の実績	成果1 「モデル地区における活動を通じ、天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための計画策定手法および技術が改善される。」	指標1: プロジェクトで策定された内容がモデル地区の村民委員会にて承認される。 指標2: バイロットプロジェクトが計画どおり実施される。	①モデル地区の村民委員会での説明・提案結果 ②関係者の意見(インタビュー)	
	成果2 「モデル地区において天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための技術普及体制が強化される。」	指標3: プロジェクトで提案された技術の内容が中国側関係者に評価される。 指標1: 研修計画に基づき研修を受けた行政関係者、牧畜民の数。 指標2: 研修内容の評価結果。(アンケート調査やインタビュー調査にて研修参加者に確認を行う。)	関係者の意見(アンケート、インタビュー) 研修報告書 研修報告書	
プロジェクト目標の実績	プロジェクト目標 「モデル地区における天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のためのモデル的取り組みを通じ、定住牧畜民に対する技術的支援体制が確立する。」	指標3: プロジェクトを通じて導入された技術を採用した牧畜民の数。 技術普及の実施体制、戦略、方針は明確で、関係者で共有されているか	関係者の意見(インタビュー) 関係者の意見(インタビュー)	
	上位目標 「新疆ウイグル自治区において、天然草地の保護が図られる。」	指標1: 新疆ウイグル自治区においてマニユアルを参考にして実施された事業の数。 指標2: 普及計画の達成状況。 指標3: 新疆ウイグル自治区の牧畜民一人当たりの純収入が増加する。 指標4: 新疆ウイグル自治区の面積あたり草量が増加する。 北新疆の類似地域において、定住世帯数が増加する	①プロジェクト報告書 ②会議議事録 ③研修・セミナー報告書 関係者の意見(アンケート、インタビュー) ①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(インタビュー)	データの取り方について専門家に要相談 マニユアルは、成果にもプロジェクト目標にも触れられていないが、成果1-3の「技術の内容」のこと? マニユアルの位置づけ要確認 モデル普及計画はその策定が活動に入っているため、成果レベルで達成されているべき? 普及計画の位置づけ要確認

評価大項目	調査中項目	調査小項目:PDM指標等(実績)、 設問(実施プロセスと5項目)	必要なデータ、入手方法	備考	
実施プロセスの確認	1活動の進捗状況	活動は計画通りに実施されているか	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
	2プロジェクトの運営管理	2.1 実施体制	①プロジェクトの関係機関の役割は明確で共有されているか ②パイロットプロジェクトの実施について関係機関の役割は明確で共有されているか ③研修実施について関係機関の役割は明確で共有されているか	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
		2.2 意思決定プロセス	プロジェクト活動において、日常業務の意思決定はどのように行われているのか、それは適切か	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
		2.3 モニタリング	①プロジェクトのモニタリング状況 ②パイロットプロジェクトのモニタリング状況 ③研修のモニタリング状況	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	3. プロジェクト内部の関係性	3.1 専門家とC/Pの関係	①専門家と自治区レベルC/Pとのコミュニケーションは円滑だったか ②専門家と市・県レベルC/Pとのコミュニケーションは円滑だったか	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
		3.2 C/P間の関係	C/P間のコミュニケーションは適切だったか?	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	4. その他関係者との関わり方	3.3 プロジェクト全体の関係	プロジェクト全体での情報共有は十分であったか?	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
		4.1 CP以外(自治区、市・県、郷の各レベル)の関係者との関係	①活動への参加度合いはどうか ②コミュニケーションは円滑だったか?	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	5. オーナーシップ	4.2 牧畜民との関係	①活動への参加度合いはどうか ②コミュニケーションは円滑だったか?	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
		5.1 自治区科学技術庁、新疆草地生態保護利用工程センターのオーナーシップ	プロジェクトに対するオーナーシップは十分か	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	6. その他の貢献・阻害要因	5.2 上記機関以外のC/Pのオーナーシップ	プロジェクトに対するオーナーシップは十分か	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
		—	プロジェクトに影響を与えたその他の貢献・阻害要因はあったか	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	5項目	1. 妥当性	(1)上位目標は現在でも中国政府の開発政策・計画と整合性はあるか ①全国生態環境建設計画、草原法、防砂治砂法、第11次5か年計画(第4章2節)以後に変更や新しい政策はないか? (2)上位目標は現在でも新疆ウイグル自治区政府の開発政策・計画と整合性はあるか ①第11次5か年計画(第2章1節)以後に変更や新しい政策はないか? ②自治区畜牧庁の牧畜民定住計画(2009年3月発表、2011年から10年間で17万戸、76万人の牧畜民定住計画)以後に変更や新しい政策はないか?	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
			(2)上位目標・プロジェクト目標は現在でも日本の援助政策、JICA国別事業実施計画と整合性はあるか	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
プロジェクトは妥当性があるか?		プロジェクト目標は現在でも対象地や受益者のニーズに合致しているか	日本の援助政策、JICA国別実施計画	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
		①対象地域の選定は適切か	関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
		②プロジェクトの戦略、計画、アプローチは現地の状況に適しているか、効果の受益や費用の負担は公平か	関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
1.4 事前評価以降、プロジェクトを取り巻く環境の変化はないか	プロジェクトに影響を与える政策、経済、社会、自然環境の変化はないか?	関係者の意見(インタビュー)			

評価大項目	調査中項目	調査小項目:PDM指標等(実績)、 設問(実施プロセスと5項目)	必要なデータ、入手方法	備考	
2.有効性(予測) プロジェクトの実施に より、期待される効 果が発現するか?	2.1 プロジェクト目標の達成度	プロジェクト目標は達成される見込みがあるか	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
	2.2 成果の貢献度	プロジェクト目標の達成は、成果の結果として、もたらされるものか 外部条件はないか	PDM、関係者の意見(インタビュー)		
	2.3 成果からプロジェクト目標にいたる外部条 件の影響	プロジェクト目標達成を阻害・貢献する要因は何か	関係者の意見(インタビュー)		
	2.4 有効性に影響を与えるその他の要因	プロジェクト終了までに達成される見込みか	関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
	3.1 成果1の産出状況		(1)活動は、成果1を産出するのに十分か ①活動1を通じて、カウンタートパートの計画策定手法、技術はどの程度向上し たか ②活動1-6のマニュアル作成に関し、方針は明確か(体制、内容、使用者、タ ーゲット、承認機関など)	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
			(2)活動は、成果2を産出するのに十分か ①活動2-5モデル普及計画策定の方針は明確か(体制、内容、使用者、タ ーゲット、承認機関など) ②モデル普及計画は、状況が異なる牧畜民に汎用的に対応可能なものか? ①外部条件は満たされるか ②その他の外部条件はないか	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
			(1)成果はプロジェクト終了までに達成される見込みか	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	3.2 成果2の産出状況		(2)活動は、成果2を産出するのに十分か ①活動2-5モデル普及計画策定の方針は明確か(体制、内容、使用者、タ ーゲット、承認機関など) ②モデル普及計画は、状況が異なる牧畜民に汎用的に対応可能なものか? ①外部条件は満たされるか ②その他の外部条件はないか	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
			(1)中国側の投入は規模、タイミング共に適切だったか (2)日本側の投入は内容、規模、タイミング共に適切だったか	PDM、関係者の意見 投入実績 関係者の意見(インタビュー)	
	3.3 成果にいたる外部条件の影響		(2)日本側の投入は内容、規模、タイミング共に適切だったか	投入実績 関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
			①「草原節水灌漑プロジェクト」の具体的な連携例 ②その他、活用できる他のリソースを有効活用しているか	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	3.4 成果達成に対する投入のタイミング、量、 質の適正さ		①2009年7月の渡航禁止、専門家派遣の延期によるプロジェクト活動への影 響はあるか?とられた対策は適切だったか?	①プロジェクト報告書 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
②重点農家をモデル農家20戸から5戸に限定した際、選ばれなかった農家へ の悪影響はなかったか?			関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
3.5 関連機関との連携		③プロジェクトの効率性を阻害・貢献するその他の要因があるか?	関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
		①上位目標はプロジェクトの結果として達成が見込まれるか	①PDM(上位目標とプロジェクト目標の関係) ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	「生計向上一定住化→天然草地の保護」となるか? 外部条件ないか?	
		②外部条件は適切か、その他の外部条件はあるか	①PDM ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
3.6 効率性に影響を与えるその他の要因		③上位目標発現を阻害する要因はあるか	関係者の意見(アンケート、インタビュー)		
4.インパクト(予測) プロジェクトの実施に より波及効果はある か?	4.1 上位目標達成見込み				

評価大項目	調査中項目	調査小項目:PDM指標等(実績)、 設問(実施プロセスと5項目)	必要なデータ、入手方法	備考
	4.2 その他のインパクト	プロジェクト実施により、その他の予期しなかったプラス・マイナスの影響はあるか (可能性が想定されていた)家畜増加による草地負荷(塩害)は発生しているか?発生している場合、適切な対策がとられているか?	関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	5.1 制度面	天然草地保護、牧畜民定住化政策は今後も継続する見込みか ①プロジェクト終了後の成果の継続、普及について、自治体レベルで方針・戦略があるか(方針・戦略を作る計画があるか) ②プロジェクト終了後の成果の継続、普及について、市・県レベルで方針・戦略があるか(方針・戦略をつくる計画があるか) ③プロジェクト終了後もC/P(自治体レベル、市・県レベル)は関連ポストに配置される見込みか ④プロジェクトの成果を継続・普及していく関係機関の役割は明確か ⑤関連機関との連携は十分か、プロジェクト終了後も継続する見込みか	関係者の意見(アンケート、インタビュー) 関係者の意見(インタビュー) 関係者の意見(アンケート、インタビュー) 関係者の意見(アンケート、インタビュー) 関係者の意見(インタビュー)	
	5.2 組織面	③プロジェクト終了後もC/P(自治体レベル、市・県レベル)は関連ポストに配置される見込みか	関係者の意見(インタビュー)	
	5.3 財政面	④プロジェクトの成果を継続・普及していく関係機関の役割は明確か ⑤関連機関との連携は十分か、プロジェクト終了後も継続する見込みか C/P(自治体レベル、市・県レベル)は事業を実施するための十分な財源が確保されているか、プロジェクト終了後も確保される見込みか	①各機関の予算状況 ②関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
5. 自立発展性		(1) <OP(自治体レベル、市・県レベル)の技術能力> ①プロジェクト終了までにCPが独自で関連活動を計画・実施・モニタリングできる能力がつかか ②プロジェクト終了までにさらに向上が必要な課題は何か (2) <牧畜民の能力> ①プロジェクト終了までに牧畜民が必要な技術や経営能力を身につけられるか ②プロジェクト終了までにさらに向上が必要な課題は何か (3) 供与機材の維持管理 ①CPに資機材の維持管理能力はあるか、維持管理システムは確立されているか、管理担当者が明確か ②スベアパーツや消耗品の入手・修理は現地で可能か、そのための予算は確保されているか	関係者の意見(アンケート、インタビュー) 関係者の意見(アンケート、インタビュー) 関係者の意見(アンケート、インタビュー) 関係者の意見(アンケート、インタビュー) 関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	5.4 技術面		関係者の意見(アンケート、インタビュー)	
	5.5 社会・文化的側面、環境面	社会・文化的側面、環境面の自立発展性に関して留意することはあるか	関係者の意見(インタビュー)	
構 造的 視 点	プロジェクトの実施の際に社会配慮・ジェンダー配慮はなされているか		関係者の意見(インタビュー)	

付属資料4. 質問票

新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト中間レビュー
質問票配布先

質問票の種類	配布先
自治区科学技術庁	科技庁の主要プロジェクト担当者(該当する人数配布)
新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト草地生態保護利用行程センター	センターの主要プロジェクト担当者(該当する人数配布)
自治区レベル関係機関	畜牧庁のプロジェクト担当者(代表 1名)
	農業庁のプロジェクト担当者(代表 1名)
	水利庁のプロジェクト担当者(代表 1名)
	新疆畜牧科学院のプロジェクト担当者(代表 1名)
	新疆農業大学のプロジェクト担当者(代表 1名)
	新疆農業科学院のプロジェクト担当者(代表 1名)
	新疆農業職業技術学院のプロジェクト担当者(代表 1名)
	新疆科学技術幹部研修センターのプロジェクト担当者(代表 1名)
市・県レベル CP	昌吉市の主要プロジェクト担当者(各部署代表 1名)
	富蘊県の主要プロジェクト担当者(各部署代表 1名)

新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクトに関する質問票

「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」に関する中間レビューが8月31日から9月11日まで実施されます。中間レビューに先立ち、皆様のご意見や情報を収集いたしたく、質問票を送付します。お忙しいところ申し訳ありませんが、8月31日(火)までに JICA 中国事務所 の唐佳 (TangJia.CN@jica.go.jp) 宛に回答を送付頂きますようお願いいたします。

JICA 中間レビュー調査団 藤本抄越理

所属: 新疆ウイグル自治区科学技術庁 職位: _____ お名前: _____

新疆ウイグル自治区科学技術庁について

1. 自治区科学技術庁についてお尋ねします。

(1) 職員数: _____ 人

(2) 予算: 2010 年度 _____ 万元、 2011 年度 _____ 万元

2. 自治区科学技術庁のプロジェクトでの役割、活動内容:

プロジェクトの実施プロセスについて

1. プロジェクト活動の日常の意思決定はどのように行われていますか?

2. モニタリングについて

(1) プロジェクト活動全般のモニタリングの方法、頻度、結果の関係者への共有方法についてお書きください。

方法: _____

頻度: _____

結果の共有方法: _____

(2) パイロットプロジェクトのモニタリング・評価の方法、頻度、結果の関係者への共有方法についてお書きください。

方法: _____

頻度: _____

結果の共有方法: _____

(3) プロジェクトで実施する研修のモニタリング・評価の方法、頻度、結果の関係者への共有方法についてお書きください。

方法: _____

頻度: _____

結果の共有方法: _____

3. プロジェクト内のコミュニケーションについて

(1) 日本人専門家とどのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(2) 自治区レベルの他関係機関と、どのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(3) 新疆草地生態保護利用工程センターと、どのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(4) 市・県レベルの協力機関と、どのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

4. プロジェクトの意思決定、モニタリング、コミュニケーションについて課題があればお書きください。

5. プロジェクトの貢献・阻害要因について

(1) プロジェクトによい影響を与えた事項があれば、お書きください。

(2) 2009年7月の暴動事件による日本人専門家の派遣延期は、プロジェクトにどのような影響を与えましたか？日本人専門家不在の間、どのような対応策をとられましたか？

影響：_____

対応策：_____

(3) (2)以外でプロジェクトに悪影響を与えた事項があればお書きください。

影響を与えた事項：_____

影響：_____

対応策：_____

プロジェクトの実績について

1. プロジェクトの各活動の進捗状況、成果、課題について、どのように評価されますか？

天然草地の保護利用計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

営農計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

水利用計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

パイロットプロジェクトについて

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県、郷レベル行政管理者を対象とした牧畜民定住事業の計画策定および実施に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県・郷レベル技術普及担当者を対象とした牧畜民への技術指導を強化するための研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県・郷レベルの技術普及担当者によるモデル地区牧畜民を対象とした草地管理、畜産、節水灌漑、営農等に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

2. プロジェクトの成果について

プロジェクトの各成果の達成度について、どのように評価されますか？

成果1 モデル地区における活動を通じ、天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための計画策定手法および技術が改善される。

達成状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 0～25% <input type="checkbox"/> 26～50% <input type="checkbox"/> 51～75% <input type="checkbox"/> 76～100%		

成果2 モデル地区において天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための技術普及体制が強化される。

達成状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 0～25% <input type="checkbox"/> 26～50% <input type="checkbox"/> 51～75% <input type="checkbox"/> 76～100%		

妥当性について

1. 中国政府の開発政策・計画である「全国生態環境建設計画」、「草原法」、「防砂治砂法」、「第11次5ヵ年計画(第4章2節)」は、プロジェクト開始後に変更されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような変更がありましたか？

2. プロジェクト開始後に、新しい定住事業、天然草地生態保護に関する中国政府の開発政策・計画は発表されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような開発政策・計画ですか？

3. 新疆ウイグル自治区政府の開発政策・計画である「第11次5ヵ年計画(第2章1節)」、「自治区畜牧庁の牧畜民定住計画全国生態環境建設計画」は、プロジェクト開始後に変更されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような変更がありましたか？

4. プロジェクト開始後に、定住事業、天然草地生態保護に関する新疆ウイグル自治区政府の新しい開発政策・計画は発表されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような開発政策・計画ですか？

5. プロジェクト目標は対象グループ(新疆ウイグル自治区行政官、市県行政員、郷レベル技術普及員、対象地定住牧畜民)のニーズに合っていますか？

はい いいえ

「いいえ」の場合、その理由をお書きください。

6. 対象地域の選定は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

7. モデル農家の選定方法や選定数は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

8. モデル農家に選ばれなかった農家への影響があれば、具体的な影響をお書きください。

9. プロジェクトの実施内容・技術や方法は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

有効性について

1. プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成できると思いますか？

プロジェクト目標:

モデル地区における天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のためのモデル的な取り組みを通じ、定住牧畜民に対する技術支援体制が確立する。

はい いいえ

「いいえ」の場合、その理由をお書きください。

プロジェクト目標を達成するために必要な取り組みや解決すべき課題をお書きください。

効率性について

1. 日本側の投入について

(1) 日本人専門家の派遣時期、人数は適切ですか？

適切 適切でない

「適切でない」の場合、その理由をお書きください。

(2) 日本での研修の時期、期間、内容は適切ですか？

適切 適切でない

「適切でない」の場合、その理由をお書きください。

(3) 日本から供与された機材は適切ですか？

適切 適切でない

「適切でない」の場合、その理由をお書きください。

2. 関連機関との連携

(1) 「草原節水灌漑プロジェクト」との連携について、具体例をお書きください。

(2) JICA 以外の他国ドナーの協力はありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、他ドナーの機関名、協力内容をお書きください。

機関名: _____

協力内容: _____

インパクトについて

1. プロジェクト終了後3年以内に、中国側の独自の取り組みにより、プロジェクトの上位目標が達成されると思いますか？

上位目標:
新疆ウイグル自治区において牧畜民の生計向上により定住化が進み、天然草地の保護が図られる。

はい いいえ

「はい」の場合、その理由をお書きください。

「いいえ」の場合、上位目標達成のために、何が必要だと思いますか？

2. プロジェクトの実施によるプロジェクト以外へのインパクトがあればお書きください。

自立発展性について

1. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるための方針、戦略がありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような成果の継続・普及計画があるかお書きください。

2. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるために、必要な事項についてお答えください。

(1) どのような制度が必要だと思いますか？

(2) 今後強化すべき能力や技術があればお書きください。

自治区レベル関係者: _____

市・県レベル関係者: _____

牧畜民: _____

(3) 成果の継続・普及に必要な予算を確保できますか？

はい いいえ

「はい」の場合、確保できる額: _____ 万円

(4) その他、成果の継続・普及に必要な事項があれば、お書きください。

その他

日本人専門家と共に活動することによって、どのような効果がありましたか？

その他、プロジェクトに関してご意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。
現地調査でもよろしく願います。

新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクトに関する質問票

「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」に関する中間レビューが8月31日から9月11日まで実施されます。中間レビューに先立ち、皆様のご意見や情報を収集いたしたく、質問票を送付します。お忙しいところ申し訳ありませんが、8月31日(火)までに JICA 中国事務所の唐佳(Tang.Jia.CN@jica.go.jp)宛に回答を送付頂きますようお願いいたします。

JICA 中間レビュー調査団 藤本抄越理

所属: 新疆草地生態保護利用工程センター 職位: _____ お名前: _____

新疆草地生態保護利用工程センターについて

1. 新疆草地生態保護利用工程センターについてお尋ねします。

(1) 役割と業務内容:

(2) 部署構成(組織図の添付でもよい): _____

(3) 職員数: _____人

(4) 予算: 2010 年度 _____ 万元、2011 年度 _____ 万元

2. 新疆草地生態保護利用工程センターのプロジェクトでの役割、活動内容:

プロジェクトの実施プロセスについて

1. プロジェクト活動の日常の意思決定はどのように行われていますか?

2. モニタリングについて

(1) プロジェクト活動全般のモニタリングの方法、頻度、結果の関係者への共有方法についてお書きください。

方法: _____

頻度: _____

結果の共有方法: _____

(2) パイロットプロジェクトのモニタリング・評価の方法、頻度、結果の関係者への共有方法についてお書きください。

方法: _____

頻度: _____

結果の共有方法: _____

(3) プロジェクトで実施する研修のモニタリング・評価の方法、頻度、結果の関係者への共有方法についてお書きください。

方法: _____

頻度: _____

結果の共有方法: _____

3. プロジェクト内のコミュニケーションについて

(1) 日本人専門家とどのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(2) 自治区科学技術庁と、どのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(3) 自治区レベルのプロジェクト協力機関と、どのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(4) 市・県レベルの協力機関と、どのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

4. プロジェクトの意思決定、モニタリング、コミュニケーションについて課題があればお書きください。

5. プロジェクトの貢献・阻害要因について

(1) プロジェクトによい影響を与えた事項があれば、お書きください。

(2) 2009年7月の暴動事件による日本人専門家の派遣延期は、プロジェクトにどのような影響を与えましたか？日本人専門家不在の間、どのような対応策をとられましたか？

影響：_____

対応策：_____

(3) (2)以外でプロジェクトに悪影響を与えた事項があればお書きください。

影響を与えた事項：_____

影響：_____

対応策：_____

プロジェクトの実績について

1. プロジェクトの各活動の進捗状況、成果、課題について、どのように評価されますか？

天然草地の保護利用計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

営農計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

水利用計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

パイロットプロジェクトについて

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県、郷レベル行政管理者を対象とした牧畜民定住事業の計画策定および実施に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県・郷レベル技術普及担当者を対象とした牧畜民への技術指導を強化するための研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県・郷レベルの技術普及担当者によるモデル地区牧畜民を対象とした草地管理、畜産、節水灌漑、営農等に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

2. プロジェクトの成果について

プロジェクトの各成果の達成度について、どのように評価されますか？

成果1 モデル地区における活動を通じ、天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための計画策定手法および技術が改善される。

達成状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 0～25% <input type="checkbox"/> 26～50% <input type="checkbox"/> 51～75% <input type="checkbox"/> 76～100%		

成果 2 モデル地区において天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための技術普及体制が強化される。

達成状況 (1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 0~25% <input type="checkbox"/> 26~50% <input type="checkbox"/> 51~75% <input type="checkbox"/> 76~100%		

妥当性について

1. プロジェクト目標は対象グループ(新疆ウイグル自治区行政官、市県行政員、郷レベル技術普及員、対象地定住牧畜民)のニーズに合っていますか？

はい いいえ

「いいえ」の場合、その理由をお書きください。

2. 対象地域の選定は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

3. モデル農家の選定方法や選定数は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

4. モデル農家に選ばれなかった農家への影響があれば、具体的な影響をお書きください。

5. プロジェクトの実施内容・技術や方法は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

有効性について

1. プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成できると思いますか？

プロジェクト目標:

モデル地区における天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のためのモデル的な取り組みを通じ、定住牧畜民に対する技術支援体制が確立する。

はい いいえ

「いいえ」の場合、その理由をお書きください。

プロジェクト目標を達成するために必要な取り組みや解決すべき課題をお書きください。

効率性について

1. 日本側の投入について

(1) 日本人専門家の派遣時期、人数は適切ですか？

適切 適切でない

「適切でない」の場合、その理由をお書きください。

(2) 日本での研修の時期、期間、内容は適切ですか？

適切 適切でない

「適切でない」の場合、その理由をお書きください。

(3) 日本から供与された機材は適切ですか？

適切 適切でない

「適切でない」の場合、その理由をお書きください。

2. 関連機関との連携

(1) 「草原節水灌漑プロジェクト」との連携について、具体例をお書きください。

(2) JICA 以外の他国ドナーの協力はありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、他ドナーの機関名、協力内容をお書きください。

機関名：_____

協力内容：_____

インパクトについて

1. プロジェクト終了後3年以内に、中国側の独自の取り組みにより、プロジェクトの上位目標が達成されると思いますか？

上位目標：

新疆ウイグル自治区において牧畜民の生計向上により定住化が進み、天然草地の保護が図られる。

はい いいえ

「はい」の場合、その理由をお書きください。

「いいえ」の場合、上位目標達成のために、何が必要だと思いますか？

2. プロジェクトの実施によるプロジェクト以外へのインパクトがあればお書きください。

自立発展性について

1. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるための方針、戦略がありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような成果の継続・普及計画があるかお書きください。

2. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるために、必要な事項についてお答えください。

(1) どのような制度が必要だと思いますか？

(2) 今後強化すべき能力や技術があればお書きください。

自治区レベル関係者: _____

市・県レベル関係者: _____

牧畜民: _____

(3) 成果の継続・普及に必要な予算を確保できますか？

はい いいえ

「はい」の場合、確保できる額: _____ 万元

(4) その他、成果の継続・普及に必要な事項があれば、お書きください。

その他

日本人専門家と共に活動することによって、どのような効果がありましたか？

その他、プロジェクトに関してご意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。
現地調査でもよろしく申し上げます。

新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクトに関する質問票

「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」に関する中間レビューが8月31日から9月11日まで実施されます。中間レビューに先立ち、皆様のご意見や情報を収集いたしたく、質問票を送付します。お忙しいところ申し訳ありませんが、8月31日(火)までに JICA 中国事務所の唐佳(TangJia.CN@jica.go.jp)宛に回答を送付頂きますようお願いいたします。

JICA 中間レビュー調査団 藤本抄越理

所属: _____ 職位: _____ お名前: _____

所属先について

(1) 部署構成(組織図の添付でもよい) _____

(2) 職員数: _____ 人

(3) 予算: 2010 年度 _____ 万元、 2011 年度 _____ 万元 _____

(4) 本プロジェクトでの役割、活動内容:

プロジェクトの実施プロセスについて

1. プロジェクト内のコミュニケーションについて

(1) 日本人専門家とどのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(2) プロジェクトの弁公室とどのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(3) プロジェクトの他の関係機関との情報共有や連携は十分行われていますか？

はい いいえ

(4) プロジェクト内の情報共有や連携について課題があればお書きください。

プロジェクトの実績について

1. プロジェクトの各活動の進捗状況、成果、課題について、どのように評価されますか？
関係している活動に関してのみ、記入してください。

天然草地の保護利用計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

営農計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

水利用計画策定について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

パイロットプロジェクトについて

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県、郷レベル行政管理者を対象とした牧畜民定住事業の計画策定および実施に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県、郷レベル技術普及担当者を対象とした牧畜民への技術指導を強化するための研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県・郷レベルの技術普及担当者によるモデル地区牧畜民を対象とした草地管理、畜産、節水灌漑、営農等に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

2. プロジェクトの成果について

プロジェクトの各成果の達成度について、どのように評価されますか？

成果 1 モデル地区における活動を通じ、天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための計画策定手法および技術が改善される。

達成状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 0～25% <input type="checkbox"/> 26～50% <input type="checkbox"/> 51～75% <input type="checkbox"/> 76～100%		

成果 2 モデル地区において天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための技術普及体制が強化される。

達成状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 0～25% <input type="checkbox"/> 26～50% <input type="checkbox"/> 51～75% <input type="checkbox"/> 76～100%		

妥当性について

1. 中国政府の開発政策・計画である「全国生態環境建設計画」、「草原法」、「防砂治砂法」、「第11次5カ年計画(第4章2節)」は、プロジェクト開始後に変更されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような変更がありましたか？

2. プロジェクト開始後に、新しい定住事業、天然草地生態保護に関する中国政府の開発政策・計画は発表されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような開発政策・計画ですか？

3. 新疆ウイグル自治区政府の開発政策・計画である「第11次5ヵ年計画(第2章1節)」、「自治区畜牧庁の牧畜民定住計画全国生態環境建設計画」は、プロジェクト開始後に変更されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような変更がありましたか？

4. プロジェクト開始後に、定住事業、天然草地生態保護に関する新疆ウイグル自治区政府の新しい開発政策・計画は発表されましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような開発政策・計画ですか？

5. プロジェクト目標は対象グループ(新疆ウイグル自治区行政官、市県行政員、郷レベル技術普及員、対象地定住牧畜民)のニーズに合っていますか？

はい いいえ

「いいえ」の場合、その理由をお書きください。

6. 対象地域の選定は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

7. モデル農家の選定方法や選定数は適切ですか？

はい いいえ

自治区レベル関係機関

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

8. プロジェクトの実施内容・技術や方法は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

有効性について

1. プロジェクト目標を達成するために必要な取り組みや解決すべき課題は何ですか？

プロジェクト目標：
モデル地区における天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のためのモデル的な取り組みを通じ、定住牧畜民に対する技術支援体制が確立する。

2. 草地保護や牧畜民定住化のために、あなたの所属先で実施している取り組みをお書きください。

効率性について

JICA 以外の他国ドナーの協力はありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、他ドナーの機関名、協力内容をお書きください。

機関名：_____

協力内容：_____

インパクトについて

1. プロジェクト終了後3年以内に、中国側の独自の取り組みにより、プロジェクトの上位目標が達成されると思いますか？

上位目標：
新疆ウイグル自治区において牧畜民の生計向上により定住化が進み、天然草地の保護が図られる。

はい いいえ

「はい」の場合、その理由をお書きください。

「いいえ」の場合、上位目標達成のために、何が必要だと思いますか？

2. プロジェクトの実施によるプロジェクト以外へのインパクトがあればお書きください。

自立発展性について

1. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるための方針、戦略がありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような成果の継続・普及計画があるかお書きください。

2. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるために、必要な事項についてお答えください。

(1) どのような制度が必要だと思いますか？

(2) 今後強化すべき能力や技術があればお書きください。

自治区レベル関係者： _____

市・県レベル関係者： _____

牧畜民： _____

(3) 成果の継続・普及に必要な予算を確保できますか？

はい いいえ

「はい」の場合、確保できる額： _____ 万円

(4) その他、成果の継続・普及に必要な事項があれば、お書きください。

その他

日本人専門家と共に活動することによって、どのような効果がありましたか？

その他、プロジェクトに関してご意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。
現地調査でもよろしくお願いします。

新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクトに関する質問票

「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」に関する中間レビューが8月31日から9月11日まで実施されます。中間レビューに先立ち、皆様のご意見や情報を収集いたしたく、質問票を送付します。お忙しいところ申し訳ありませんが、8月31日(火)までに JICA 中国事務所の唐佳(TangJia.CN@jica.go.jp)宛に回答を送付頂きますようお願いいたします。

JICA 中間レビュー調査団 藤本抄越理

所属: _____ 職位: _____ お名前: _____

所属先の概要

(1) 部署構成(組織図の添付でもよい) _____

(2) 職員数: _____ 人

(3) 予算: 2010 年度 _____ 万元、 2011 年度 _____ 万元 _____

(4) 本プロジェクトでの役割、活動内容: _____

プロジェクトの実施プロセスについて

1. プロジェクト活動の日常の意思決定はどのように行われていますか？

2. パイロットプロジェクトのモニタリング・評価の方法、頻度、結果の関係者への共有方法についてお書きください。

方法: _____

頻度: _____

結果の共有方法: _____

3. プロジェクト内のコミュニケーションについて

(1) 日本人専門家とどのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(2) プロジェクトの弁公室とどのようにコミュニケーションをとられていますか？

情報共有方法: _____

頻度: _____

内容: _____

(3) プロジェクトの他の関係機関との情報共有や連携は十分行われていますか？

はい いいえ

(4) プロジェクト内の情報共有や連携について課題があればお書きください。

プロジェクトの実績について

プロジェクトの各活動の進捗状況、成果、課題について、どのように評価されますか？

関係している活動に関してのみ、記入してください。

パイロットプロジェクトについて

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県、郷レベル行政管理者を対象とした牧畜民定住事業の計画策定および実施に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県・郷レベル技術普及担当者を対象とした牧畜民への技術指導を強化するための研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り		
<input type="checkbox"/> ほぼ計画通り		
<input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

モデル地区市・県・郷レベルの技術普及担当者によるモデル地区牧畜民を対象とした草地管理、畜産、節水灌漑、営農等に関する研修について

進捗状況(1つ選択)	成果	課題
<input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> ほぼ計画通り <input type="checkbox"/> 計画から遅れている		

妥当性について

1. プロジェクト目標は対象グループ(新疆ウイグル自治区行政官、市県行政員、郷レベル技術普及員、対象地定住牧畜民)のニーズに合っていますか？

はい いいえ

「いいえ」の場合、その理由をお書きください。

2. 対象地域の選定は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

3. モデル農家の選定方法や選定数は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

4. モデル農家に選ばれなかった農家への影響があれば、具体的な影響をお書きください。

5. プロジェクトの実施内容・技術や方法は適切ですか？

はい いいえ

「はい」もしくは「いいえ」を選択した理由をお書きください。

効率性について

JICA 以外の他国ドナーの協力はありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、他ドナーの機関名、協力内容をお書きください。

機関名: _____

協力内容: _____

有効性について

1. 天然草地保護と牧畜民の生計向上を両立するための定住牧畜民に対する技術支援体制を構築するために必要な取り組みや解決すべき課題は何ですか？

2. 草地保護や牧畜民定住化のために、あなたの所属先で実施している取り組みをお書きください。

インパクトについて

プロジェクトの実施によるプロジェクト以外へのインパクトがあればお書きください。

自立発展性について

1. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるための方針、戦略がありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのような成果の継続・普及計画があるかお書きください。

2. プロジェクト終了後、プロジェクトの成果を継続・普及させるために、必要な事項についてお答えください。

(1) どのような制度が必要だと思いますか？

(2) 今後強化すべき能力や技術があればお書きください。

自治区レベル関係者: _____

市・県レベル関係者: _____

牧畜民: _____

(3) 成果の継続・普及に必要な予算を確保できますか？

はい いいえ

「はい」の場合、確保できる額：_____ 万元

(4) その他、成果の継続・普及に必要な事項があれば、お書きください。

研修等について

1. プロジェクトの研修やセミナーに参加したことのある方にお伺いします。

(1) 参加した研修・セミナー名：_____

(2) 研修内容は役立ちましたか？

大変役立った 一部役立った あまり役立たなかった

(3) 研修受講後に活用した技術や知識がありますか？

はい いいえ

「はい」の場合、どんな技術や知識ですか？

「いいえ」の場合、活用しなかった理由。

2. 研修に関して課題や要望があれば、お書きください。

3. 日本人専門家と共に活動することによって、どのような効果がありましたか？

その他、プロジェクトに関してご意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。
現地調査でもよろしくお願ひします。

新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクトに関する質問票

「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」に関する中間レビューが8月31日から9月11日まで実施されます。この中間レビューに先立ち、詳しい事前資料を作成いただき、ありがとうございました。事前資料を踏まえて質問票を作成しておりますが、万が一事前資料にて回答済みの質問がありましたら、「回答済み」と記載いただくと幸いです。お忙しいところ大変恐縮ですが、回答済みの箇所についてのみで結構ですので、8月27日(金)までに、下記メールアドレスにご返答ください。(回答のスペースについては、自由に挿入頂いて結構です。)上記日程までに未回答の項目については、インタビュー時にご回答ください。ご協力お願い致します。

JICA 中間レビュー調査団 藤本抄越理 fujimoto@tekizaitekisho.org

お名前: _____ 担当分野: _____

プロジェクトの実施プロセスについて

1. 意思決定プロセスについて

プロジェクトにおける意思決定方法について、改善点があれば、ご記入ください。

2. プロジェクトのコミュニケーションについて

他分野間(日本人専門家、C/P)のコミュニケーションは、どのようにとられていますか？

妥当性について

1. カウンターパートについて

(1) 自治区科学技術庁のプロジェクト管理機関としての役割、実施能力、予算、人員配置は適切だと思われますか？

役割: 適切 一部問題あり 不適切

コメント: _____

実施能力: 適切 一部問題あり 不十分

コメント: _____

予算: 適切 一部問題あり 不十分

コメント: _____

人員配置: 適切 一部問題あり 不適切

コメント: _____

専門家

(2) 新疆草地生態保護利用工程センターのプロジェクト実施機関としての役割、実施能力、予算、人員配置は適切だと思われますか？

役割: 適切 一部問題あり 不適切

コメント: _____

実施能力: 適切 一部問題あり 不十分

コメント: _____

予算: 適切 一部問題あり 不十分

コメント: _____

人員配置: 適切 一部問題あり 不適切

コメント: _____

有効性について

1. プロジェクト目標の達成を確実にしていくために、何が必要だと思われますか？(誰の、どのような活動、制度、能力など)

2. プロジェクト目標「モデル地区における天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のためのモデル的な取り組みを通じ、定住牧畜民に対する技術的支援体制が確立する」の技術的支援体制について、どの機関が、誰に対して、どのような技術を、どのように支援する体制を想定されていますか？

どの機関が: _____

誰に対して(受益者): _____

どのような技術を: _____

どのように支援: _____

効率性について

1. 成果1について

(1) 天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業のための計画策定や技術について、活動1「モデル地区において活動を通じた計画策定手法および技術の改善」を通じて、G/P 機関のどのような能力、技術が向上していますか？プロジェクト以前と比べた変化を具体的にご記入ください。

専門家

(2) 活動 1-6「計画策定マニュアル、技術マニュアルを作成する」にあるマニュアルの位置づけについて、お尋ねします。

作成担当機関: _____

普及担当機関: _____

内容、目的: _____

使用者(マニュアルを使うのは誰か?): _____

承認機関(どの機関がオーソライズするのか?): _____

2. 成果 2 について

(1) 活動 2-5「モデル普及計画」について、どのような計画で進められていますか？

作成担当機関: _____

普及担当機関: _____

内容、目的: _____

使用者(マニュアルを使うのは誰か?): _____

承認機関(どの機関がオーソライズするのか?): _____

3. 関連機関との連携

JICA 以外の他ドナーの協力がある場合、他ドナーの機関名、協力内容、プロジェクトとの連携の有無をお書きください。

機関名: _____

協力内容: _____

連携: _____

インパクト

上位目標発現に必要な事項として、事前資料で「畜牧庁と科学技術庁の連携」を挙げていますが、現時点で両者の連携、情報共有がどのように行われているのか、課題は何か、今後どのような改善が望ましいのか、記載ください。

現状: _____

課題: _____

改善案: _____

自立発展性について

1. 事前資料に「科学技術幹部研修センター」をプロジェクト成果の継続・普及するうえで適した組織であるとのこと記述がありますが、現在、プロジェクト協力機関としてどのような役割を果たしていますか？

専門家

2. 同センターに対して、どのような技術移転をされていますか？

3. 同センターが実施する研修は、同センターが対象者や内容を決める権限を持っていますか？もしくは、科技庁など上部機関の指示により、センターが研修を実施していますか？(センターが主体的に研修の企画・実施ができる体制にあるかの確認です。)

4. プロジェクトの成果を継続・普及するうえで、同センターについて課題があれば記載ください(予算、人員配置、施設、機材、実施能力など)。

研修、OJTについて

1. プロジェクトの研修やOJTを通じたC/Pや牧畜民の能力、技術の向上について、どのような能力や技術の向上が見られるか(感じられるか)、お答えください。

自治区レベルのCP: _____

市県レベルのCP: _____

牧畜民: _____

2. 中国側の研修講師の経験、能力は適切ですか？

はい ある程度 いいえ

上記回答を選択した根拠をご記入ください。

3. 研修に関して課題があれば、ご記入ください。

以上

ご協力ありがとうございました。
現地調査でもよろしく申し上げます。

付属資料5. 面談・現地視察結果

日時:2010年9月1日 16:00~16:30

場所:プロジェクト弁公室(畜牧科学院内)

面談者:伊賀専門家、松本専門家、小林専門家、羽佐田専門家、大森専門家

<指標について>

- ・ モデル農家純収入額のデータ元は、プロジェクトが村で収集したものである。モデル農家各戸の収入額、家畜頭数等のデータもあるとのこと。
- ・ 生乳価格の変動や7.5事件にも関わらずモデル農家の純収入が増加している理由として考えられるのは2点。①7・5事件は農家の収入に影響を及ぼしていない、②家畜を売るなどの代替手段で生乳価格の変動などによる悪影響をカバーしている。
- ・ 現在の定住世帯数、母数、定住すべき人々のデータ(数)の有無については、畜牧庁が持っているとのこと。

<実施プロセスについて>

- ・ 関係機関の巻き込みについては、1年目は計画段階でもあったため、なるべく多くの関係者への周知、関係者を増やすことに視点を置いた。2年目からは、実施段階に入ったため、関係者をスリム化した。
- ・ 2年目から開始した運営会議で、日常の活動に関することを決定している。
- ・ プロジェクト弁公室は畜牧科学院の畜牧研修所にあるため、畜牧科学院のカウンターパートとの協議が必要な場合はいつでもアクセス可能である。

日時:2010年9月1日 17:00~18:00

場所:自治区科技庁

面談者:自治区科技庁・董平処長、陽延琴主任

<プロジェクトにおける科技庁の役割について>

- ・ プロジェクトの管理、調整
- ・ 自治区レベルの関係機関(畜牧庁、農業長、大学、畜牧科学院など)の調整
- ・ パイロットプロジェクトの実施、調整
- ・ 研修
- ・ 山西省雁門関地区生態環境回復および貧困緩和プロジェクトの視察

<実施体制について>

- ・ 現行では、1つの機関がリーダーとなり、その機関の職能では解決できない場合は、他の機関に支援を求めることとなっている。このシステムは本プロジェクトに関係なく、中国政府のシステムとして定着している。

<研修について>

- ・ 2006年から中国独自の研修プロジェクトが始まっており、研修のための予算が付与されている。研修計画の一部を科技幹部研修センターが担当している。科技幹部研修センターの役割は、①科学技術の促進、②行政幹部と技術幹部の教育、である。
- ・ 今後も研修プロジェクトは継続され予算もつく予定である。そのため、研修に関して他機関に講師を依頼する際の講師料等も支出可能(現在は日本側プロジェクト経費から支出)。

<プロジェクトによる研修の成果>

- ・ 研修の主なコンポーネントは、天然草地保護と牧畜民の定住である。科技庁の研修では今まで牧畜民まで対象としていなかった。また、研修内容はマクロ的(リーダーとは?とか指導者とは?)といった内容)だった。プロジェクト活動では、研修内容が具体的であり、モデル地区においては、県・郷・村の幹部のみならず、牧畜民にまで知識が普及され、能力が向上した。
- ・ 2つのモデル地区において、成果を他の地域に普及させることが目的であり、プロジェクトはその普及活動の基礎作りに貢献している。科技幹部研修センターでは、他地域(モデル地区以外)の関係者を対象の研修に、管理のみの内容から草地保護の内容も取り入れるようになった。

<プロジェクトの成果の普及について>

- ・ 現時点では、新疆全体への普及には至っていない。成果や教訓を抽出して、状況が整えば普及に取り組んでいく。プロジェクトは、そのための基礎作りに貢献している。科技庁は試行やモデル的な取り組みを実施する役割を担っている。成果を普及させていく機能は科技庁にはない。科技庁は、プロジェクトの成果や教訓をとりまとめて、自治区政府に報告、提案する役割である。その後、自治区政府は1つの機関や部署をリーダー機関として指名し、その機関が普及活動を担う。例えば、定住事業であれば、普及は畜牧庁が担っていく。

日時:2010年9月1日 18:40~19:50

場所:プロジェクト弁公室(畜牧科学院内)

面談者:畜牧科学院・趙徳重副研究員、李端年研究員、張金山副研究員

<プロジェクトの妥当性について>

新疆の実態に即したプロジェクトである。理由は、以下の通り。

- ①近代的な畜牧業の技術へのニーズに合致している
- ②自治区では「近代的な牧畜業の構築」という目標が掲げられており、そのために投入もされている。自治区の政策とも合致している。
- ③遊牧民が定住してからのニーズ(生計向上、牧畜業)に合致している
- ④多民族の調和のとれた発展という方向性に合致している。新疆には100万人の遊牧民がいて、カザフ族、モンゴル族、キルギス族、ウズベク族である。彼らの定住後の支援は多民族の調和のとれた発展を後押しするものである。
- ⑤気候変動や環境悪化への対応として、草地回復の活動は必要性が高い。

<パイロットプロジェクトの成果について>

牧畜民の従来の意識が変わり、新しい観念が確立した。具体例は以下の通り。

- ①採草量によって家畜の頭数を決める、家畜の頭数によって飼料の栽培を決める、など生産概念が変わった。
- ②飼料を栽培して、家畜を飼育する概念が定着しつつある。モデル地区において、カザフ族とモンゴル族は遊牧スタイルから栽培(耕作)スタイルに変わってきた。定住後に飼料栽培用に10~50ムーの土地を与えられており、飼料栽培技術が向上することによって、牧畜業が発展し、生計向上につながっている。
- ③定住地において、栽培(耕作)と牧畜業の生産スタイルが確立しつつある。飼料作物、換金作物、食用作物をローテーションさせて栽培することにより、地力が強化されるという効果がある。
- ④科学的な家畜飼育と栽培の技術が確立しつつある。プロジェクトでは、牧畜民を対象に家畜飼育技術と栽培技術(耕作)を重点的に研修している。成果品としてカザフ語のマニュアルや

普及用の資料も作成している。

<パイロットプロジェクトの問題点について>

- ・ コミュニケーション(言語。カザフ語と中国語)の問題が挙げられる。プロジェクトとしても、日中双方で取り組んできた。

<プロジェクト成果の普及について>

- ・ 普及の内容や予算について検討する必要がある。成果の普及については、本プロジェクトの第2フェーズか新しいプロジェクトの枠組みで引き続き支援してほしい。

<遊牧民に対する技術普及について>

- ・ 遊牧生活スタイルは、遊牧民による投入が必要ない。しかし、定住すると牧畜民による投入が必要となる。政府は優遇政策を実施するなどして定住化を推進している。
- ・ 当初は、中国語テキスト等を用いた研修を実施していたが言語の問題から、思うような効果が出なかった。そこで、現場での研修に切り替えて、現場で実際に起きている問題への対応策を指導するという方法に変えたら、受け入れられるようになった。
- ・ 遊牧民で中年以上の人々は、教育レベルが低いことや、新しい技術に対する抵抗感、技術を取り入れる能力が不十分、などの要因で新しい技術を習得することがなかなか難しい。しかしながら、生活レベルをあげるためには新しい技術を取り入れることが不可欠であり、新しい技術を学ぶ意欲、ニーズはある。

日時:2010年9月2日 11:00~13:00

場所:昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村集会所

面談者:昌吉市科技局2名、畜牧科学院6名、ミャルゴウ郷人民政府2名、アクチ村12名(うち
牧畜民9名、モデル農家2名、幹部1名)

<技術普及員について>

- ・ 技術普及員には3レベルある。
 - ①市レベル:300名、科技局、農業局などに所属している。村には不定期で指導。給料、活動経費は市から支出される。
 - ②郷レベル:人数不明、草原ステーションや獣医ステーションなどに所属している。専門分野に応じて不定期で指導。給料、活動経費は市から支出される。
 - ③村レベル:1300名、農民技師と呼ばれ村に滞在している。農民技師にも初級、中級、上級とレベルが分かれている。現地出身者で現場で指導にあっている。給料、活動経費は市から補助金が出ているが、農民技師が提供したサービスに対してお金を徴収している。
- ・ 牧畜民への指導については、リクエストに応じる形で訪問している。その他、広範囲の分野において調査(疫病や病虫害など)を行い、必要に応じて牧畜民への注意喚起や情報提供している。
- ・ 行政機関から村への技術支援体制はプロジェクト開始前から確立されているが、プロジェクトが開始してから、専従の普及員をアクチ村に赴任させた>(*アクチ村は昌吉市中心部から車で1時間ほどかかるため、市からの巡回が難しく、村に常駐させるようになった)。
- ・ 技術普及員へのトレーニングは、市が各機関に対して年間100時間以上のトレーニングを義務つけている。実施機関は短いもので3日、長いもので10日以上。
- ・ トレーニングはリフレッシュトレーニングである。技術普及員は、専門学校等で教育を受け

ており、技術普及員になるための許認可制度がある。

<プロジェクト活動の実績>

- ・ 市や郷から専門家が村に来るようになった。少なくとも10日以上の牧畜民対象研修が実施された。
- ・ カザフ語の教材が20種類以上作成された。牧畜民にも1000冊以上配布した。
- ・ 大学や日本人専門家が牧畜民に直接研修を実施した。

<牧畜民の行動変容について>

- ・ 飼料の調製技術が向上した。
具体例:以前はトウモロコシを成熟してからサイレージしていたが、成熟する前にサイレージするようになった。
- ・ 果樹の栽培が向上した。
具体例:ブドウ栽培などの栽培技術が向上した。
- ・ 節水灌漑が整備され、農作物が増加し、水資源も確保されるようになった。
- ・ 草地保護が進んだ。冬は畜舎飼育することによって、草地が保護されるようになった。
- ・ 乳製品の販売が始まり、収入が増えた。

<モデル農家を絞ることによって影響はあったか?>

- ・ モデル農家では一定の効果が現れてきている。技術面での指導はニーズに合致しており、今後はモデル農家を増やしてほしい。*専門家によると、アクチ村は状況が整っているため、モデル農家と非モデル農家との違いがさほど小さくなく、モデル農家を絞ることに対する抵抗はそれほどないとのこと。

<パイロットプロジェクトを普及させていくための取り組み>

- ・ 農業区でのアプローチを牧区でも活用していきたい。農業区で実施されている「村が先進村を見習う、農家が先進農家を見習う」というアプローチを牧区でも採用しており、既にモデル農家+3非モデル農家として技術普及の取り組みを開始している。

昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村現場視察・インタビュー

農家①(モデル農家)イェルジャン氏

(専門家の農家別経営状況分析評価コメントより)

農牧業収入:生体家畜販売は微増、牛加工品販売が主

土地利用:経済作物をやめ、飼料作物のみ

家畜飼育頭数:羊は減少しており、牛は増加している

総合評価:小家畜から大家畜への転換、牛加工品販売に取り組んでおり、収入も順調に増加している

<プロジェクトによって紹介された技術について>

- ・ 家畜肥育の方法や乳牛の飼料調製方法、トウモロコシの施肥の量やタイミングなどの技術を取り入れている。
- ・ 果樹栽培技術については、水分不足のため、取り入れている。
- ・ これから学びたいことは、節水灌漑の技術と温室の栽培技術

農家②(重点農家)ハカルマン氏

(専門家の農家別経営状況分析評価コメントより)

農牧業収入:生体家畜販売と農業が主

土地利用:一時飼料作物が主となっていたが、経済作物に戻りつつある

家畜飼育頭数:羊は増加している

総合評価:土地面積、家畜頭数とも大規模で収入も多いが、プロジェクトの方針に沿った経営は行われていない

<研修について>

- ・ プロジェクト開始前にも研修を受講したことがあり、放牧の方法について学んだ。プロジェクトでは、定住地での畜舎飼育等について学んだ。受講した研修内容について、作物の栽培技術については、研修後に親戚などに伝えた。

<定住について>

- ・ 技術(節水灌漑)と資金面(節水灌漑に必要な設備や材料)で支援が必要。
- ・ 定住して国から庭と住宅地をもらった。子牛や子羊も生まれて収入が増えており、定住生活で困っていることは特にない。
- ・ 所有している家畜数は、メス羊 230 頭、肉用羊(換金)60 頭、牛 20 頭、馬 5 頭。メス羊は子羊が 200 頭以上生まれる予定で、オスは販売、メスは 7 割販売、3 割は子羊を生ませる。
- ・ 夏は山で放牧し、11 月から畜舎飼育に移る。

日時:2010年9月2日 15:30~17:40

場所:昌吉市政府

面談者:水利局・鄭氏(エンジニア)、農業技術普及ステーション・周氏(上級農業園芸師)、草原ステーション・努氏(畜牧師)、科技局・吳氏(プロジェクト弁公室)

<各機関の概要とプロジェクトでの役割について>

①水利局

- ・ 職員は 36 名。水利局管轄下に 2 つの行政法人がある(水資源、地上水)。
- ・ プロジェクトでの役割は、①節水灌漑施設に関する技術指導、施工現場での監督・指導、②節水灌漑施設建設後の運用管理に関する技術指導、③牧畜民への灌漑方法のトレーニング

②農業技術ステーション

- ・ 職員は 33 名。農業局の管轄下。
- ・ プロジェクトでの役割は、①パイロットプロジェクトの草地動的モニタリング、②飼料の栽培量と家畜頭数のバランスのとれた営農促進、③定住事業の監督、④科技の冬での技術トレーニング

③科技局

- ・ 職員は 18 名。工業課、農業課、総合課、総務課などで構成されている。
- ・ プロジェクト弁公室には科技局から 2 名専従で配置されている。弁公室の主任は科技局の局長で、主管管理は昌吉市副市長である。
- ・ プロジェクトでの役割は、プロジェクト目標達成に必要な調整、プロジェクトの運営。60 平米のプロジェクト執務室を提供しており、日本人専門家が活動しやすい環境を整備した。

<通常での各機関間の連携について(プロジェクト開始前)>

- ・ 横の連携はある。具体例は、節水灌漑の取り組みであれば、水利局(灌漑施設の技術、管理)と農業局(周辺地域への影響)が協力する。農業区と牧区の境界で生じた病虫害であれば、畜牧局と農業局が協力して取り組む。

<プロジェクト活動での連携体制について>

- ・ 基本的には、それぞれ担当分野での業務を遂行するが、必要に応じて連携する。横の連携は従来から継続されているので、今後も継続する。
- ・ 連携については問題ない。科技局がリーダー機関として、他機関は科技局の指示に従う。
- ・ (誰が科技局をリーダー機関に任命したのかの質問に対して)このプロジェクトは科技庁が要請しており、科技庁、科技局が窓口となって管理していくことが日中双方で合意されている。

<パイロットプロジェクトについて>

①水利局

- ・ 実績:灌漑施設の整備、配水管の設置などの技術支援で、円滑に進捗している。
- ・ 成果:アクチ村は自然環境が厳しく、特に水不足である。節水方法が変わることによって、一部の作物の収量の増加などの効果があらわれている。
- ・ 課題:「科技の冬」などで灌漑について研修して、節水灌漑のメリットについて牧畜民は認識しているが、設備が不十分である。

②農業技術ステーション

- ・ 実績:栽培技術の研修の実施、現場での指導を行った。パイロットプロジェクトの活動は計画通り。
 - ・ 成果:①今まで栽培作物の品種が単一であったが、換金作物など多品種を栽培するようになった。②牧畜民の圃場管理の技術が向上した。具体例として、施肥の量やタイミング、どの肥料が必要かなど把握できるようになった。③病虫害の対策や知識が増えた。
- 課題:①研修を集中的に行ったほうが良い。もっと研修の機会、回数を増やしてほしい。②カザフ語の教材作成にかかる費用を支援してほしい。

③草原ステーション

- ・ 実績:遊牧民にとって栽培はゼロからのスタートである。飼料の技術指導等、幅広い技術を指導した。
- ・ 成果:牧畜民は技術を身につけた。春先の作付け、秋のサイレージなど現場で指導した。1ムーあたりの播種の量、散水のタイミングや量などを指導し、牧畜民は技術を受け入れ行動変容につながった。

④科技局

- ・ 実績:本プロジェクトでは「天然草地保護」と「牧畜民の収入向上」への取り組みを展開しているということについて、関係機関は共通認識をもって活動している。プロジェクトは実態に即した研修を実施しており、インフラ整備を目的としたプロジェクトではなく、人材育成に取り組んでいるプロジェクトであるということについて関係者の理解が深まっている。プロジェクト活動をモデル地区の牧畜民も受け入れており、牧畜民も自立して発展していくという意識が向上してきた。専門家の帰国後も、市や郷への(中国政府からの)支援が継続し、引き続き政策面でも合致していれば、プロジェクトの成果は継続していく。横の連携も更に緊密にして、プロジェクトの成果を普及していく。現時点では、プロジェクトの成果について、研修の体制と飼料の調製の2点について成果が見られていると分析している。アクチ村のモデル農家においては、作物栽培の70%が飼料作物の栽培で占められており、1人あたりの純収入も増加して昌吉市でトップである。
- ・ 成果:技術普及体制は、以前から確立されていたが、プロジェクト活動によってレベルアップした。研修については、農牧区対象の研修について市から40万元の予算が来年(2011年)おける予定。さらに、郷からも60万元おけるので、研修を継続していくことができる。

<草地保護について>

- ・ 天然草地保護は草原管理所が担当している。草原ステーションは、人工飼料を栽培して、

牧畜するという活動を支援しており、基本的に牧畜民に対する支援を展開している。安定した定住のために、牧畜民の収入を最大限にするよう支援している。また、資源調査を実施し、結果に基づいて飼料の利用可能量、家畜の頭数を決定している。

- ・ ミャルゴウ郷では、2011年から2013年に396戸が定住する見込みであり、自然環境の保全を目的に残っている山間部の65世帯を除けば、全世帯が定住することになる。
- ・ 草地保護は3-5年では効果が見られない。5年後あたりから効果が見え始める。自治区の12年次5ヵ年計画では、①砂漠と平野部の草地1.5億ムーを禁牧、②平野部と山間部の草地5.5億ムーを休牧と輪牧に定める。そこで、牧畜庁としては、牧畜民の損失を軽減するために、保障制度の確立を人民代表大会常務委員会で提案する予定である。

<乳製品のマーケティング>

- ・ 牧畜民のために市場を作るのは無理なので、市としては情報提供というかたちで支援している。大手企業が生乳などを買い取る場所に牧畜民が生乳を持って行き買い取ってもらうという方法を牧畜民に紹介しているほか、大企業が買い取る場所に看板を立てて分かりやすく宣伝するなどしている。
- ・ マーケティングについては、牧畜経済合作社を通じて何か支援ができないか模索中である。

<プロジェクトが開始してからアクチ村へ行った回数(面談者自身の訪問回数)>

- ①水利局職員:2007年に7、8回。2008年から現在まで、他機関の関係者と10数回訪問した。
- ②農業技術ステーション職員:年間3、4回
- ③草原ステーション:15、16回

<草原使用証について>

- ・ 2005年の改訂版は、実施するのに膨大な作業量が発生するので人員面で追いついていないという現状もあり、試行のみの状態である。

日時:2010年9月3日 16:40~17:10

場所:畜牧科学院本館

面談者:畜牧科学院・王力俊院長、陳静潔所長、武堅処長、張楊副所長、易華副所長

王院長から、同席者の紹介、中間レビュー調査団の訪問やJICAの支援に対する感謝の意が表された後、プロジェクトに関するコメントがあった。

- ・ 本プロジェクトの意義として2点挙げられる。①砂漠化への対応、天然草地生態保護、牧畜区の発展、②日中の友情が深まる、である。日中双方の努力により、プロジェクトが実施されている。7・5事件によって専門家の派遣が一時期とりやめとなったが、活動に大きな影響は与えていない。
- ・ モデル地区で成果が見られている。①砂漠化への対応、②牧畜業の発展や牧畜民の収入増、である。
- ・ 畜牧科学院は、プロジェクトの実施機関として支援してきた。日本人専門家からは、活動に対する熱意と管理のノウハウを学んだ。
- ・ 今回の中間レビューの結果を活かし、残りの期間でプロジェクト目標が達成されるよう努力していきたい。このプロジェクトが、環境保全や牧畜民の収入向上に貢献し、牧畜民の生活向上、日中の協力関係の促進に寄与することを期待したい。

日時:2010年9月3日 17:20~18:30

場所:畜牧科学院

面談者:畜牧科学院・張楊副所長、武堅処長、趙徳重副研究員、他2名

科技幹部研修センター3名、新疆農業大学1名、新疆育科院情報所1名

<張楊組長よりプロジェクトの問題について>

5つの問題が挙げられる。

①5つの活動計画について

- ・ プロジェクトで策定された5つの活動計画の進捗状況にばらつきがある。
- ・ 牧畜民の技術レベルは低く、草地保護、水利用、農業分野の専門家には、より長期的に現地で活動してほしい。活動の成果が限定的であるのは、中国側カウンターパートが投入した時間と能力不足も原因である。
- ・ 今後は、牧畜生産分野、農業分野の市場経営に対して投入を増やすなど、遅れている分野に対して予算を投入し適切な予算配分をしてほしい。

②JICAからの投入

- ・ 日本側からの投入額を教えてください。中国側のカウンターパートが予算措置をする際に、日本からの投入額がわからないと困る。

③本邦研修について

- ・ 牧畜民に対して、農作物や畜産物の加工技術を教えたい。本邦研修は、現場での研修が少なく座学が多い。研修の8割は役立つもので実践に移しているが、残りの2割は改善の余地がある。先端技術ではなく、日本の酪農家が、どのように家畜を飼育しているのか、どのように製品を加工しているのかを学びたい。牧畜民の収入を向上させるために必要である。

④技術についての問題

- ・ このプロジェクトは技術移転が目的である。モデル地区において、農業栽培、水利用技術、牧草栽培、市場経営、畜産加工技術のうち1つでもいいので、明確な成果を出してほしい。

⑤プロジェクト終了後の成果の普及について

- ・ 第12次5ヵ年計画では、天然草地保護と定住政策を強化する方針が既に打ち出されており、同分野への中央政府からの投入は増加する見込みであるが、資金の投入は、必ずしも技術向上につながるとは限らず、プロジェクトの成果を広範囲に普及するために、プロジェクト期間を延長してほしい。

<新疆農業大学のアゼブラ教授からのコメント>

- ・ 天然草地の保護と牧畜民の定住は、新疆では重点となっている取り組みである。牧畜民の8割が定住したとも言われるが、定住の定義にばらつきがあり、基準通りの定住をしている牧畜民は3割程度である。牧畜民の飼料生産のスタイルは変わりつつあるが、十分ではない。家畜頭数と飼料栽培のバランスのとれた牧畜や衛生管理などにおいて課題が残されている。
- ・ 飼料生産分野と市場開拓や加工技術レベルが低いので、指導してほしい。

<畜牧科学院からのコメント>

- ・ 日中双方の投入によりプロジェクトが進んでいるが、今までのプロジェクトの成果は突出したのではなく、中核となる技術が必要である。
- ・ このプロジェクトは現状に即しており、プロジェクトの成果を広範囲に広めたい。
- ・

日時:2010年9月4日16:50~18:30

場所:富蘊県科技局

面談者:自治区科技厅2名、畜牧科学院3名、富蘊県科技局4名(陶局長、夏副局長、党書記、弁公室主任)、富蘊県科技協会1名、農業経済局1名、草原ステーション2名、畜牧獣医ステーション2名、水利局1名、農業技術ステーション1名

<パイロットプロジェクトの普及、モデル農家の活動について>

- ・ 牧畜業や農業の研修はモデル農家20戸や重点農家に絞っているわけではなく、非モデル農家も対象とし、多くの人に参加してもらうようにしている。

<牧畜民が困っていること>

- ・ 2点挙げられる。
 - ①飼料栽培の土地が少ないこと(50ムーあるが、飼料栽培には1/3しか利用していない)
 - ②生乳の生産量が伸びているが、販売ルートが開拓できない。企業は買い取りに来るが、価格が下落しているため、牧畜民は売りたいがらない。生乳を売るより、乳製品を売ったほうが利益があるので、加工技術や加工に必要な設備が必要である。
- ・ 生乳価格が下落したため、科技局ではカゼイン加工の技術研修を実施して、牧畜民には2つの選択肢ができた。
 - ①生乳の買取価格が良ければ売る。
 - ②生乳の買取価格が低ければ、腐っていてもカゼインに加工して売ることができる。

→プロジェクトでカゼイン加工機を導入する。

<家畜の頭数について>

- ・ 天然草地保護の政策によって、放牧している家畜頭数は減少している。また、小家畜から大家畜への転換が進められている。

<男女の役割について>

- ・ 研修には男女問わず参加しており、女性が半分くらいを占める。また研修内容によって男女の比率は変わり、刺繍の研修などでは女性が大半を占める。
- ・ 男女の役割は決まっており、女性は家で家事、乳製品の加工、搾乳などを担い、男性は外での肉体労働、採草、販売ルートの開拓などを行っている。

<富蘊県での研修について>

- ・ 4種類の研修を実施している。
 - ①現場研修:技術者や専門家を村に派遣し、牧畜民を集めて研修する
 - ②問題に応じて、村滞在の技術普及員が指導する
 - ③技術普及員のレベルアップのために、自治区レベルの講師が指導する
 - ④牧畜民を県に集めて、県の研修センターで研修する
- ・ 研修プログラムは4つあり、①科技の冬②科技の夏③科技の週間④技術文化衛生の専門家による現場指導、である。
- ・ 科技特派員制度というものもあり、分野ごとのプロジェクトを実施しており、郷や村で指導している。各村に科技文化活動室(集会所のようなもの)が設置されており、そこで実施している。
- ・ 研修は、自治区からの通知に従い、県で各局が研修計画を作成している。
- ・ 牧畜民対象にメニュー形式(要望に応えるかたちのオーダーメイド研修)の研修も実施している。要望が郷に伝えられ、要望に沿って専門家が派遣される。
- ・ 研修の回数は、科技の冬で424回、科技の夏(現場指導)で212回実施しており、そのう

- ち 7 割程度がメニュー方式の研修である。研修実施前にニーズ調査を実施している。
- ・ 科技の冬は今年で 21 回目 (21 年目) であり、プロジェクト終了後も継続していく活動である。

<プロジェクトによる研修の成果について>

- ・ プレゼンテーション研修を受け、学んだ手法を活かして成果が得られた。プレゼンテーション研修受講前にも牧畜民に対して講師として研修を実施していたが、理論を伝えるだけにとどまっていた。プロジェクトの研修受講後は、牧畜民が何を必要としているのか把握し、また年齢別や教育レベル別に研修を実施するなど、ニーズに沿った研修をするようにしている。

<プロジェクト活動の成果について>

- ・ 搾乳の衛生について学んだ。牧畜民は感謝しており、プロジェクト終了後も継続していく。
- ・ 牧畜民の意識向上と農業生産について栽培技術が向上した。
- ・ モデル農家だけではなく、他の農家もプロジェクトに対する関心が高い。牧畜民の収入向上と草地保護に関する意識が高まっている。
- ・ 中央政府で草地保護政策が打ち出されているし、新疆では定住事業が一大政策となっている。プロジェクトは 5 年間と短く、牧畜民の生活が 5 年間で急に豊かになるのは無理だが、牧畜民の意識が変われば、プロジェクト終了後も成果は継続する。
- ・ チャプラ村の牧畜民は、プロジェクトの重要性、目標、プロジェクト終了後はどのようにするか考えており、また、プロジェクトが物的支援ではなく意識の変化を目的としていることを理解している。
- ・ PCM 研修はプロジェクトの管理手法で有効であり、中国独自のプロジェクトや活動にも活かしたい。

<その他>

- ・ 余剰労働力の活用として、農業から溶接、刺繍、ショベルカーの運転などに転換しようとしている。職業訓練学校でそのような技術を教えている。
- ・ 職員の 8 割程度はカザフ族であり、言語は問題ない。また、自分たちの親は牧畜民で、自分自身も幼少時に遊牧生活を送った経験もある。その上で定住生活がいいと思っている。

日時:2010 年 9 月 5 日 11:40~13:30

場所: 富蘊県チャプラ村集会所

面談者: 自治区科技厅 2 名、畜牧科学院 3 名、富蘊県科技局 3 名、チャプラ村担当行政官 1 名、チャプラ村水管理員 2 名、牧畜民 22 名 (村幹部、モデル農家)

<プロジェクト活動に対するコメント(重点農家ジゲベグ氏)>

- ・ プロジェクトが開始してから、飼料栽培をしながら家畜(羊と牛)を飼育するようになった。以前は遊牧していたので、固定の住居がなく、常に移動をしていて苦労した。定住後は、2, 3 人で牧畜し、余剰労働力は別の産業に従事でき、収入源が多元化したので収入が増加し、生活が向上した。
- ・ プロジェクトの研修で新しい技術や知識を学んだ。具体例としては、十分な飼料を確保するようになったため、自然災害が起きても対応できるようになった。去年、未曾有の雪害に見舞われたが、ダメージを受けることはなかった。
- ・ プロジェクト活動を通じて、定住と草地保護を両立できると認識するようになった。塩類集

積が起きているが、プロジェクトの支援で排水路を作ったことによって改善されつつある。

<プロジェクト活動に対するコメント(村の幹部の女性・農家家計記帳担当)>

- ・ 農家家計記帳は今まで行っていなかったが、今はできるようになり、農家が年間の収入と支出を把握できるようになった。収入は伸びており、特に乳牛からの乳製品、トウモロコシ、アルファルファによる収入も増加している。
- ・ プロジェクトの研修により、家畜飼料技術、栽培技術を学んだ。

<生乳について>

- ・ 6, 7, 8 月は生乳価格が下がるため、直接メーカーに販売せずにカゼイン、バター、チーズに加工して販売している。冬は生乳価格が回復する。
- ・ 乳製品の加工技術、加工設備が不足しており、中国政府からも支援がないため、プロジェクトから支援して欲しい(専門家によると、各戸に供与予定)。

<飼料栽培用の土地 50 ムーについて>

- ・ 大規模な牧畜業だったら 50 ムーでは不十分である。しかし、50 ムーしか与えられていないので、家畜の頭数を調整している。品質のよい家畜を飼育し、草地への負担も減らすようにしている。

<飼料畑について>

- ・ 飼料畑は、飼料作物・換金作物・食用作物の 3 重構造となっている。3 種類の割合について国として指定していないが、モデル農家は、モデルとしての成果を挙げる必要があるため、飼料を確保したうえで、残りの 2 種類の割合を決めるように指導している。日本人専門家の指導を受けながら、所有家畜の頭数、種類によって栽培の計画を立てるようにしている。

<冬期間の家畜飼育について>

- ・ 冬の期間、モデル農家は畜舎で飼育しているが、非モデル農家は冬牧場を使っている(このような人々はまだ完全に定住していない)。

<非モデル農家への普及について>

- ・ 非モデル農家も、栽培技術、記帳、飼育方法に関心がある。県が研修をする際には、モデル農家以外にも幅広く対象者とし、研修でモデル農家が自分の事例を紹介するなどしている。
- ・ 非モデル農家が近隣のモデル農家に指導を依頼することは頻繁にある。非モデル農家も収入への影響を目の当たりにしており、意識が高い。

<技術普及員について>

- ・ 村には村の技術普及員と獣医が常駐しており、彼らは研修を受けているので、村での指導が可能である。
- ・ 現在の課題としては、病虫害と寄生植物の問題で、感染力が強いため、早期に発見することが必要であり、牧畜民にも周知している。
- ・ 郷が村に分野ごとに(農業分野、牧畜分野)技術普及員を配置し、技術普及員は複数の村を担当している。
- ・ 技術普及員は専門の大学を卒業しており、知識、技術があるため、村の問題は技術普及員で対応可能である。村や郷で問題が解決できない場合は上位機関に支援を求める。

<サイレージ調製について>

- ・ モデル農家は全員サイレージ調製の研修を受けており、サイレージ調製している。サイロの整備には国が補助金を出している。

<草地保護について>

- ・ 定住してから山羊を販売して牛の頭数を減らすことで、自分の草地への負担を減らし、草地は回復している。
- ・ 大干ばつの時、草地が悪化したために高地の草地を使った。

<子供の将来について>

- ・ 子供には国の義務教育を受けさせて大学まで行かせたい。大学卒業後は特に村に戻って欲しいという希望はなく、子供の意思を尊重したい。

日時:2010年9月6日 9:00~10:00

場所:富蘊県科技局

面談者:富蘊県科技局陶正新局長、夏嶺林副局長、木黒扎提党書記

坪田団員から以下の通りコメント。

- ・ アクチ村とチャプラ村で活動の進捗状況が違ふ。チャプラ村は、①一貫性のないモニタリング、②報告と実際の相違(報告よりヒマワリ栽培が多い)、③モデル農家ですら畜舎が整備されていない、④サイロを使っている形跡がない、などが見受けられ、牧畜民の意識は向上していないのではないかと。
- ・ チャプラ村は技術普及員の指導も行き届いていないように見受けられ、草地負担を軽減するインセンティブもなく、県がかなり力を入れる必要があるのではないかと。

陶局長からのプロジェクトに対するコメントは以下の通り。

- ・ 日本の支援を受けながら効果が出ていない。プロジェクトは調査が多く、問題解決につながるような活動が少ない。
- ・ プロジェクトから供与されたトラクターの馬力が少ない。
- ・ チャプラ村の198戸のうちモデル農家は当初20戸、現在は重点農家5戸に減らされている。モデル農家を増やし、モデル農家は均等に扱ってほしい。
- ・ 村への投入が少ない。資金投入ではなくても、技術面の支援をしてほしい。
- ・ プロジェクトの研修が少ない。中国側は独自で研修を多く実施している。
- ・ 農家は日本の先進技術を学びたいが、今までの研修では中国の技術が中心である。プロジェクトがインフラ整備ではなく、技術移転が目的だということは理解しているが、日本の技術の導入をしてほしい。
- ・ 中国側はかなり投入しているが、日本側の投入が少ない。事前調査の段階では、もっと大きな額が示されていた。
- ・ 家畜の頭数が増えていないのであれば、サイロは必要ないのではないかと。また、畜舎も、家畜の頭数が増えていないのであれば、今のままで問題ないのではないかと。

日時:2010年9月7日 10:45~13:30

場所:畜牧科学院

面談者:畜牧科学院・張副院長、武処長、李研究員、趙副研究員(C/P)、張副研究員、他2名、科技幹部研修センター1名、新疆農業大学1名

<科技幹部研修センターからの研修に関する提案>

- ・ 地域の栽培技術、家畜飼育・管理に適した日本の技術の研修を実施してほしい。
- ・ 牧畜の技術者対象の研修を実施してほしい。
- ・ 本邦研修の人数と回数を増加してほしい。
- ・ プロジェクトの段階的な成果を普及してモデルとしての成果をあげるべき。
- ・ プロジェクトは末端レベル(牧畜民)に研修をしているが、県と郷の幹部がプロジェクトの成果や目標などを理解しないと、成果は普及していかない。牧畜民は教育レベルが低いし、受動的であるので、成果を普及していく県・郷レベルの幹部に対する研修を強化すべきである。
- ・ プロジェクトのインパクトが限られているので、モデル農家を増やすべき。
- ・ プロジェクトの研修は、3つの段階に対して実施すべきである。
 - ① 県・郷の幹部に天然草地保護の重要性を理解してもらうための研修
 - ② 農牧区の技術者向けの研修。普及ステーションには技術者がいるので、栽培技術や家畜飼育、マネジメントの研修
 - ③ 郷と県の技術者や自治区の専門家を講師として、牧畜民対象の研修
- ・ 「科技の冬」など中国独自に研修を実施しているが、モデル地区以外はプロジェクトによる支援について知らないため、このプロジェクトのインパクトを広げるために、他の県や郷の幹部への研修が必要である。
- ・ 科技幹部研修センターは、県や郷の幹部にマネジメントを重点においた研修を実施してきた。プロジェクトでは、市場開拓、水利用、家畜飼育、家計記帳等について研修を実施しており、「科技の冬」との相乗効果で、プロジェクトの成果の普及に重点を置きたい。
- ・ 科技幹部研修センターとしては、主に県と郷の幹部向けの研修が全体の研修の6割、専門技術者向けの研修が3割、その他1割であり、牧畜民への研修は実施していない。
- ・ 「科技の冬」では、他の機関と連携して、各分野が同時に行う研修、相互補完的な研修となっている。
- ・ 研修の進め方には2種類ある。①主導型研修(牧畜民のニーズに基づいた研修)と②受動型研修(対象者の教育レベルが低く、どんな技術が役に立つかを対象者が理解していない場合に研修実施者が研修内容を決める研修)である。

<日本の技術について>

- ・ プロジェクトでは、日本ならではの技術を取り入れてほしい。日中で状況が異なるので、日本の技術をもってくるのは難しく、すぐに活用することはできないが、視野を広げることは重要である(張副院長)。
- ・ 特に草地保護や農業栽培技術に関しては、中国の技術のほうが進んでいる場合もあり、日中の技術にそれほど差はないのではないかと(坪田団員)。
- ・ 日本の場合、個々の技術というよりは技術の組み合わせやマネジメントといったソフト面での技術が優れている。日本の農協を取り入れ、プロジェクトの5つの活動を合わせて“生産モデル”を立ち上げるのはどうか？プロジェクトが対象としている牧畜民は遊牧の生活、生産スタイルの人たちで栽培技術がない。生産方式の転換によって定住化をいかに徹底していくかが重要であり、ポイントは牧畜民の意識と生活の向上である。それを達成するためにモデルを構築できると良い。プロジェクトの成果を短期間で広範囲に普及させることは難しいので、重点モデル農家を5戸に絞って投入を重点化してモデルを確立し、それを普及したい。中国にも農協のような組織があるが、上部からの指示に従うだけの組織で、あまり機能していない。これを農協のような組織に成長させたい。牧畜民の組織化はプロジェクトの営農計画にも含まれている(張副院長)。
- ・ 今から本プロジェクトで日本の農協を取り入れるのは時間的に難しく、必要があるのであれば、他のプロジェクトになると思う(坪田団員)。

- ・ 第12次5カ年計画(2011年～2015年)では、定住政策は基本的にインフラ整備で、ソフト面での支援はないため、第11次5カ年計画の終了前にプロジェクトのモデルが確立できるとよい(大森専門家)。

<プロジェクトの5つの活動計画について>

- ・ 5つの活動計画の進捗状況にはばらつきが見られる。一部の進捗が遅れている理由としては、①専門家の交代があったこと、②調査が多過ぎること、が挙げられる。また、成果を上げるためには、技術を教えるだけでなく、投入も必要である。
- ・ 研修だけでなく、実践的な技術を指導してほしい。プロジェクトで導入されている技術は、従来から中国にあるものである。

<プロジェクト予算について>

- ・ プロジェクトの予算がプロジェクト開始時に聞いていた額に比べて少ないように思われる。日本側の投入額がわからないと、中国側で投入に見合った計画が立てられない(張副院長)。
- ・ プロジェクト予算は減額していない。プロジェクトの計画額は JICA ホームページで公開している(松本団長)。

<チャブラ村について>

- ・ チャブラ村は、市場からも遠く、経済的なハンディもあり、また自然環境も厳しく、普及活動を行うにもハンディがある。これらの要因のために、パイロットプロジェクトの進捗が遅れており、まだモデルになるような成果が上がっていない。飼料作物の作付などは、報告と実際が異なっており、飼料栽培と冬の舎飼のプロセスが確立していない。飼料作物ではなく換金作物のヒマワリが多く栽培されていた。ヒマワリ栽培に補助金も出されているとのことであった。乳牛による収益が上がることも大事だが、畜産だけに頼るのは危険である。チャブラ村は典型的な定住村で、今後の他地域への普及を考えると、チャブラ村でのモデル確立は重要である。郷の技術普及員が重要であり、プロジェクトのなかで、どのように技術普及員を支援するのかがポイントだと思われる。畜牧科学院、科技厅、県・市のカウンターパートによる技術普及員の支援はポイントになるとと思われる。また、女性の活用も重要だと思われる(坪田団員)。
- ・ チャブラ村は、典型的な従来からのアルタイの遊牧民族で85%がカザフ族である。アクチ村とチャブラ村は環境の異なる村で、この2村でパイロットプロジェクトがうまく進めば他地域に普及していく。インフラ整備は整っているので、ソフト面での支援が必要で投入も必要である。牧畜民が今までの習慣を5年間に変えるのは困難で、技術指導や意識向上が必要不可欠である。今までの中国におけるアプローチは、上からの研修と新しい技術の導入であったが、効果は思わしくない。実態に即した支援が必要だと思う(張副院長)。
- ・ 投入が必要とのことだが、予算を大幅に増やすことは JICA の予算状況では厳しい。また、モデル農家について、自治区レベルではモデルの確立のためにモデル農家を限定するという方向性だが、現場ではモデル農家を増やしてほしいとの要望が上がっており、中国のカウンターパート内で意思の統一をお願いしたい(足立団員)。

日時:2010年9月8日 10:00～14:30

場所:自治区科技厅

面談者:科技厅・董平処長、陽延琴主任、畜牧科学院・張楊副院長、趙德重副研究員

調査団で作成した報告書案に関する説明及び協議を行った。協議内容は以下の通り。

<日本側の投入について>

- ・ 日本側の投入の詳細内訳を記載してほしい(張副院長)。
- ・ 日本側投入詳細にするのであれば、同じ基準で中国側投入を記載する必要があるが、それぞれ基準が異なっており、同じ基準で算出するには膨大な作業量となるため、そこに労力をかけるべきではない(坪田団員)。

⇒詳細内訳は記載しないことで合意。

<中国側の投入について>

- ・ 中国側 C/P の活動経費、科技幹部研修センターが実施している研修の経費、インフラ整備、研究事業なども記載してほしい(張副院長)。

⇒中国側の要望に従って記載内容を追加。

<「5.1.3 プロジェクト目標の実績【指標 2】活動・研修成果の事業への活用状況」について>

- ・ 牧畜民が取り入れた技術やノウハウに関する記載があるが、①飼料の栽培・施肥技術、②灌漑用水の管理技術、③家畜品種改良及び飼育管理技術、なども活用されている(張副院長)。
- ・ この記載は、調査団がヒヤリング等で確認したものに限っている。調査団が確認できなかった技術については別に記載する必要がある(坪田団員)。
⇒調査団が確認したものに加え、CPが主張する技術を追記した。

<「5.1.3 プロジェクト目標の実績【指標 3】モデル地区牧畜民一人当たりの純収入が増加する」について>

- ・ 「プロジェクトの効果のみによる収入額を判断することは難しいが」とあるが、プロジェクト開始時と比較するとモデル農家の収入は増加している(張副院長)。
- ・ 文章の意図は、「プロジェクトの効果のみの収入額を判断することは難しい」ということであって、収入が増加していることは記載している(坪田団員)。
- ・ 「農業による増収が明らかである」と追加してほしい(張副院長)。
⇒「農業による増収が明らかである」を追加。

<「5.1.3 プロジェクト目標の実績【指標 4】モデル地区天然草地の面積あたり草量が増加する」について>

- ・ プロジェクトで天然草地に正のインパクトを及ぼすと考えられ、また天然草地の草量はいろいろな調査を組み合わせれば計測できると思われる(張副院長)。
- ・ 文章の意図は「指標のデータをもってプロジェクトの効果をはかることが困難」ということであり、草量そのものについての記載ではない。天然草地保護をはかる指標については本調査団で検討、別の指標を設定している(坪田団員)。
- ・ 事前調査時にこの指標は適切ではない旨指摘したが、意見が採用されなかった(趙副研究員)。
- ・ 趙副研究員の意見が聞き入れられなかったことについては申し訳ない(坪田団員)。

<実施体制について>

- ・ 「彼ら(技術普及員)への指示系統と各機関との関係は特に複雑である」について、「複雑である」よりも「直接的ではない」という記載が適切である(董処長)。
⇒文章の変更

<効率性の「日本側の投入」について>

- ・ 日本人専門家の派遣時期の改善と日本側の投入の増加について記載を追加してほしい(張副院長)
⇒中国側から要望があった旨を追加。

<提言について>

- ・ チャプラ村への注力、技術支援体制(科技庁と畜牧庁の連携の重要性)、新規技術についてなど、同感で有益な提言だと思う(董処長)。
- ・ プロジェクト期間に関する記載があるが、延長を要請するのか(董処長)。
- ・ 現時点では、まずは、プロジェクトの成果を上げることに集中すべき。しかし、不可抗力な要因で日本人専門家が1年間派遣されなかったことがプロジェクト活動に影響を与えており、プロジェクト期間の延長は検討の余地があると考え。プロジェクト延長を検討する余地を残すため、延長可能性について記載した。ただし、実際に要請しても延長できるかどうか、現時点で確約はできない(松本団長)。

主要面談者リスト

● 9月1日

科技厅ヒヤリング

氏名	性別	所属先	職位
董平	男	科技厅对外科学技术合作処	処長
陽延琴	女	科技厅对外科学技术合作処	主任

畜牧科学院ヒヤリング

氏名	性別	所属先	職位
李瑞年	男	畜牧科学院研究所	研究員
趙徳重	男	畜牧科学院研究所	副研究員
張金山	男	畜牧科学院研究所	副研究員

● 9月2日

昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村ヒヤリング・現場視察

氏名	性別	所属先	職位
莎依拉	女	昌吉市ミャルゴウ郷人民政府	副郷長
張新立	男	昌吉市科技局	局長
呉柏村	男	昌吉市科技局	
葉貝森	男		
張楊	男	畜牧科学院研究所	副院長
武堅	男	畜牧科学院国際合作処	処長
李瑞年	男	畜牧科学院研究所	研究員
趙徳重	男	畜牧科学院研究所	副研究員
李紅波	男	畜牧科学院研究所	調整員
阿尔達克	女	昌吉市ミャルゴウ郷人民政府	
葉尔森	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	村幹部
阿芭依	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	モデル農家
玛坦亚提	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	モデル農家
葉尔江	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民
芭金提亜尔	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民
夏依木拉提	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民
亜賽	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民
沙肯吉麗	女	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民
葉尔蘭	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民

葉尔江	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民
阿山	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民
阿里列列克	男	昌吉市ミャルゴウ郷アクチ村	牧畜民

昌吉市関係機関ヒヤリング

氏名	性別	所属先	職位
鄭智	男	昌吉市水利局	エンジニア
周澤容	女	昌吉市農業技術普及ステーション	上級農業園芸師
努尔加列力	男	昌吉市草原ステーション	畜牧師

● 9月3日

畜牧科学院意見交換会

氏名	性別	所属先	職位
張楊	男	畜牧科学院研究所	副院長
武堅	男	畜牧科学院国際合作処	処長
李瑞年	男	畜牧科学院研究所	研究員
趙徳重	男	畜牧科学院研究所	副研究員
張金山	男	畜牧科学院研究所	副研究員
李紅波	男	畜牧科学院研究所	調整員
簡偉	男	新疆科技幹部研修センター	副主任
楊大鵬	男	新疆科技幹部研修センター	科長
胡燕	女	新疆科技幹部研修センター	職員
楊奎花	女	新疆育科院情報所	副研究員
莎士布拉	男	新疆農業大学	教授

畜牧科学院院長表敬訪問

氏名	性別	所属先	職位
王力儉	男	畜牧科学院	院長
張楊	男	畜牧科学院畜牧研究所	副院長
陳静潔	男	畜牧科学院研究所	所長
武堅	男	畜牧科学院国際合作処	処長
易華	女	畜牧科学院草業研究所	副所長

● 9月4日

富蘊県関係者ヒヤリング

氏名	性別	所属先	職位
董平	男	自治区科技厅	処長

陽 延琴	女	自治区科技厅国際合作処	主任
李 瑞年	男	畜牧科学院研究所	研究員
趙 徳重	男	畜牧科学院研究所	副研究員
張 金山	男	畜牧科学院	副研究員
木黒扎提	男	富蘊県科技局	党書記
陶 正新	男	富蘊県科技局	局長
夏 嶺林	男	富蘊県科技局	副局長
顧 芳	女	富蘊県科技局	弁公室主任
芭金未拉	女	富蘊県農業経済局	
王 山群	男	富蘊県水利局	助工程師
別尔德漢	男	富蘊県草原ステーション	技術員
金斯則吾	男	富蘊県草原ステーション	技術員
党金別克	男	富蘊県畜牧獣医ステーション	畜牧師
幹及尔臣貝	女	富蘊県畜牧獣医ステーション	畜牧師
牟 車泰	男	富蘊県農業技術ステーション	上級農芸師
倪 徳華	男	富蘊県科技協会	副主席

● 9月5日

富蘊県チャ普拉村現場視察

氏名	性別	所属先	職位
董 平	男	自治区科技厅	処長
陽 延琴	女	自治区科技厅国際合作処	主任
李 瑞年	男	畜牧科学院研究所	研究員
趙 徳重	男	畜牧科学院研究所	副研究員
張 金山	男	畜牧科学院	副研究員
陶 正新	男	富蘊県科技局	局長
夏 嶺林	男	富蘊県科技局	副局長
木黒扎提	男	富蘊県科技局	党書記
即孜娜尔汗	男	富蘊県チャ普拉村水管理員	幹部
沙依普	男	富蘊県チャ普拉村担当行政官	幹部
卡米拉西	女	富蘊県チャ普拉村水管理員	幹部
烏标别克	男	富蘊県チャ普拉村	村委員会書記・主任
努尔蘭别克	男	富蘊県チャ普拉村	村委員会副主任
傑恩斯别克	男	富蘊県チャ普拉村	村委員会委員
努尔巴合	女	富蘊県チャ普拉村	村委員会委員
尼格孜别克	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民

葉 盖	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
傑恩斯努尔	女	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
海娜尔别克	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
葉尔波拉提	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
布尔布斯	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
馬德提	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
馬丁	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
葉尔木拉提	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
巴勒恒别克	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
吉格尔别克	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
奥汗拜	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
阿拜	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
赛力克波力	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
傑恩斯克	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
都帕西	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
傑恩斯	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民
米拉木汗	男	富蘊県チャ普拉村	牧畜民

● 9月7日

畜牧科学院意見交換会

氏 名	性別	所属先	職 位
張 楊	男	畜牧科学院研究所	副院長
武 堅	男	畜牧科学院国際合作処	処長
李 瑞年	男	畜牧科学院研究所	研究員
趙 德重	男	畜牧科学院研究所	副研究員
張 金山	男	畜牧科学院研究所	副研究員
李 紅波	男	畜牧科学院研究所	調整員
楊 奎花	女	畜牧科学院情報研究所	副研究員
楊 大鵬	男	新疆科技幹部研修センター	科長
艾比布拉	男	新疆農業大学	教授

● 9月8日

合同評価報告書に関する協議

氏 名	性別	所属先	職 位
董 平	男	科技厅対外科学技術合作処	処長
陽 延琴	女	科技厅対外科学技術合作処	主任

張 楊	男	畜牧科学院研究所	副院長
趙 德重	男	畜牧科学院研究所	副研究員

● 9月9日

合同調整委員会

氏 名	性別	所属先	職 位
約爾古麗·加帕爾	女	科技厅	書記
董 平	男	科技厅对外科学技术合作处	処長
陽 延琴	女	科技厅对外科学技术合作处	主任
張 楊	男	畜牧科学院研究所	副院長
趙 德重	男	畜牧科学院研究所	副研究員
武 堅	男	畜牧科学院国際合作处	処長
艾比布拉	男	新疆農業大学	教授
張 新立	男	昌吉市科技局	局長
吳 柏村	男	昌吉市科技局	
陶 正新	男	富蘊県科技局	局長
夏 嶺林	男	富蘊県科技局	副局長
佐竹健次	男	日本大使館經濟部	参事官

活動	投入	中国側	
<p>1-1 モデル地区において、プロジェクトに関連する天然草地および水資源等の自然資源調査、牧畜民の家族構成および生計等の社会経済調査、営農調査(家畜の飼養、飼料作物等の栽培、市場等)、灌漑施設等のインフラ整備の現状および将来計画に係る調査等を実施し、現状と課題を把握するとともに、一部課題を改善するための活動を行う。</p> <p>1-2 1-1の結果を踏まえ、モデル地区の現状に応じた適切な天然草地の保護利用計画、土地利用計画、営農計画、水利用計画を策定する。</p> <p>1-3 モデル地区の天然草地の保護利用計画、農地利用計画、営農計画、水利用計画に基づき、モデル地区の一部で実施する天然草地の保護と牧畜民の生計向上のための対策を含むパイロットプロジェクトの内容を決定し、活動計画を策定する。</p> <p>1-4 活動計画に基づきパイロットプロジェクトを実施する。パイロットプロジェクトの内容は次のとおり。</p> <p>1-4-1 牧草、飼料作物、自給・換金作物等の栽培技術および水管理技術を改善する。</p> <p>1-4-2 飼料調製技術および家畜の飼養生産技術を改善する。</p> <p>1-4-3 天然草地保護回復のための対策を実施する。</p> <p>1-5 パイロットプロジェクトのモニタリング・評価を行う。</p> <p>1-6 モデル地区における活動を計画策定マニュアル、技術マニュアルを作成する。</p> <p>2-1 モデル地区の技術普及体制(草地管理、畜産、節水灌漑、営農等)に係る現状および課題を把握し、モデル地区における技術普及体制整備計画(研修計画を含む)を策定する。</p> <p>2-2 研修計画に基づきモデル地区市・県、郷レベル行政管理者を対象として牧畜民住事業の計画策定および実施に関する研修を実施する。</p> <p>2-3 研修計画に基づきモデル地区市・県、郷レベル技術普及担当者として牧畜民への技術指導を強化するための研修を実施する。</p> <p>2-4 研修計画に基づきモデル地区市・県、郷レベルの技術普及担当者によるモデル地区牧畜民を対象として草地管理、畜産、節水灌漑、営農等に関する研修を実施する。</p> <p>2-5 実用的なカザフ語教材を作成する。</p> <p>2-6 モデル普及計画を策定する。</p>	<p>日本側</p> <p>(1)専門家の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総括/草地管理 ・栽培/飼料生産 ・家畜飼養 ・水利用計画/水管理 ・研修計画/普及体制整備 ・農家経営/市場調査 <p>(2)本邦研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の関係機関での研修を行う。 ・人数については、毎年の研修計画に基づき決定する。 <p>(3)機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両 ・技術普及および関連測定に必要な機材 ・パイロット事業の実施に必要な資機材 ・事務設備等 ・その他 <p>(4)活動経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修経費(教材作成費、講師謝金等) ・パイロットプロジェクトの実施経費 ・専門家交通費等 	<p>中国側</p> <p>(1)カウンターパートの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治区レベル25名 ・市・県レベル20名 <p>(2)施設の配置</p> <p>(3)研修経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修参加者交通費 ・会場費等 <p>(4)プロジェクト実施運営費</p>	<p>・牧畜民がプロジェクトの実施を受け入れる。</p> <p>前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連省庁が協力機関としてプロジェクトに参加する。 ・モデル地区牧畜民がプロジェクトの実施を受け入れる。

*1 冬期間とは、冬牧場で過ごす期間のことで、通常11月下旬から4月上旬を指す。

*2 北新疆の類似地区とは、プロジェクトで定めて定義することとする。

*3 入戸率とは、特定の地域における総世帯数のうち、ある技術を採用している世帯数の割合を指す。中国の統計情報として収集されている。

项目计划概要表 (PDM)

项目名称: 新疆天然草地生态保护与牧民定居示范项目
项目地区: 昌吉市庙儿沟乡阿克旗村、富蕴县杜热乡恰布拉克村
项目管理单位: 自治区科技厅
项目实施单位: 畜牧科学院

项目期: 5年 (2007年6月启动)
受益群体: 新疆维吾尔自治区行政人员、市县行政人员、乡镇技术推广员、项目区定居牧民

Version1 (2010年9月9日)

最高目标	指标	获取指标数据的手段	外部条件
在沙漠化等生态环境恶化严重的中国干旱、半干旱地区, 通过可持续农牧业的开展, 提供农牧民的生活水平, 改善生态环境。			
总体目标 在北极类似定居地区, 提高牧民生活水平, 保护天然草地。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在北极类似地区, 将本项目成果运用于定居工程的事例达6个以上。 2. 在北极类似地区, 冬季在定居村过冬的羊的比例增加15%。(全村抽样调查) 3. 在北极类似地区, 牧民人均农牧业纯收入提高20%。(全村抽样调查) 	<p>新疆自治区畜牧厅、畜牧科学院等的相关资料、访谈调查</p>	
项目目标 通过大力实施保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程的示范性措施, 强化针对定居牧民的技术支持体系。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 示范户牧民人均农牧业纯收入提高40%。 2. 示范户冬季对天然草地的依赖程度降低30%(依赖程度: 一定期间内, 在家畜饲料需求总量中所占的比例)。 3. 项目期内自治区科技厅直属单位采取措施, 落实预算, 开展一次以上面向市、县及乡的培训。 4. 技术推广员在示范村内巡回对牧民进行农牧业技术指导并听取意见, 在两村实施各10天以上。(培训除外) 	项目资料	<ul style="list-style-type: none"> • 退牧还草、牧民定居工程等相关政策不发生变化。
成果 1. 通过在示范区开展活动, 改进保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居项目的技术和计划制定、实施和评估方法。	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 以中方为主体所制定的内容, 向示范区的村民委员会进行说明, 提出建议, 得到村民的同意。 1-2 试点项目根据每年的监测结果进行改进并予以实施。(监测表格的完善等) 1-3 项目所建议的技术内容得到中方有关人员的正面评价。 	项目资料	<ul style="list-style-type: none"> • 自然环境状况不会由于干旱等自然灾害进一步恶化。 • 物价不因农畜产品的供需关系和材料等的市场变化而发生大幅的变动。 • 治安没有发生大恶化。
2. 通过示范项目, 为保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程开展的技术培训得到进一步加强。	<ol style="list-style-type: none"> 2-1 在项目实施期间, 参加研讨会、会议、OJT (在职培训) 的自治区、市县、乡、村有关人员达1400人次以上。 2-2 按照培训计划举办的培训, 行政人员的参加人数达到400人次, 牧民达到1600人次以上。 2-3 市、县、乡技术人员培训合格人员*达到85%, 牧民达到60%以上。 <p>*超过简易考试及格线 (60分) 的人员。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-4 在示范区, 项目推广、使用的农牧业单项技术*的入户率达到 80%。 <p>*技术是指饲料种植、加工、调制及施肥技术; 节水灌溉及用水管理技术; 家畜养殖、品种改良及饲养管理技术、乳制品加工技术、农户家庭收支记账方法等。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-5 市县科技局主办的针对牧民需求的培训超过2次以上。 		

活动	投入	投入	投入
<p>1-1 在示范区开展天然草地和水资源等自然资源调查、牧民家庭构成和生活状况等社会经济调查、农业经营状况调查(家畜的饲养、饲料作物等的栽培、市场情况)、灌溉设施等基础设施的现状调查以及关于未来计划的调查等,在掌握现状和课题的同时,针对部分课题进行改进。</p> <p>1-2 根据1-1的结果,制定适合示范区现状的天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、水资源利用计划。</p> <p>1-3 根据示范地区的天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、水资源利用计划,确定在部分示范地区实施的保护天然草地和提高牧民生活水平的试点项目的内容,制定活动计划。</p> <p>1-4 按照活动计划实施试点项目。</p> <p>试点项目的内容如下。</p> <p>1-4-1 改进牧草、饲料作物、自给和经济作物等的栽培技术和水资源管理技术。</p> <p>1-4-2 改进饲料加工和调配技术、家畜饲养生产技术。</p> <p>1-4-3 开展天然草地保护与恢复工作。</p> <p>1-5 对试点项目进行检测和评估。</p> <p>1-6 将示范区的活动内容制作成计划制定指南、技术指南。</p>	<p>日方投入</p> <p>(1)派遣专家</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本专家组负责人/草地管理 栽培/饲料生产 家畜饲养 水资源利用计划/水资源管理 培训计划/完善技术推广体制 农户经营/市场调查 <p>(2)赴日培训</p> <ul style="list-style-type: none"> 在日本相关机构进行培训。 人数根据每年的培训计划决定。 <p>(3)器材</p> <ul style="list-style-type: none"> 车辆 技术推广和有必要测量必要器材 实施试点项目的必要器材 办公设备等 其他 <p>(4)活动经费</p> <ul style="list-style-type: none"> 培训所需经费(教材制作费、讲师酬金等) 试点项目的实施经费 专家交通费等 	<p>中方投入</p> <p>(1)配备人员</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治区级25名 市、县级20名 <p>(2)配备设备/设施</p> <p>(3)培训经费</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加培训人员的交通费 会场费用等 <p>(4)项目实施运营费</p>	<p>•牧民接受项目的实施。</p>
<p>2-1 掌握示范区的技术推广体制(草地管理、畜牧、节水灌溉、农业经营等)方面的现状和课题,制定示范区技术普及体制的完善计划(包括培训计划)。</p> <p>2-2 根据培训计划,在示范地区针对市、县和乡级行政管理人员,开展牧民定居项目的计划制定及实施方面的培训。</p> <p>2-3 根据培训计划,在示范地区针对市、县和乡级技术推广人员,开展对牧民进行技术指导方面的培训。</p> <p>2-4 根据培训计划由市、县和乡级技术推广人员针对示范地区牧民开展草地管理、畜牧、节水灌溉、农业经营等方面的培训。</p> <p>2-5 编制实用的哈萨克文教材。</p> <p>2-6 制定示范推广计划。</p>			<p>前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 相关厅局作为合作单位参加项目。 示范区牧民接受项目的实施。

注: *1 冬季是指在冬牧场过冬的时间,一般指11月下旬至次年的4月上旬。

*2 北疆类似地区的定义今后由项目来确定。

*3 入户率是指在特定区域内采用某一技术的户数占总户数的比例,在中国作为统计信息收集。